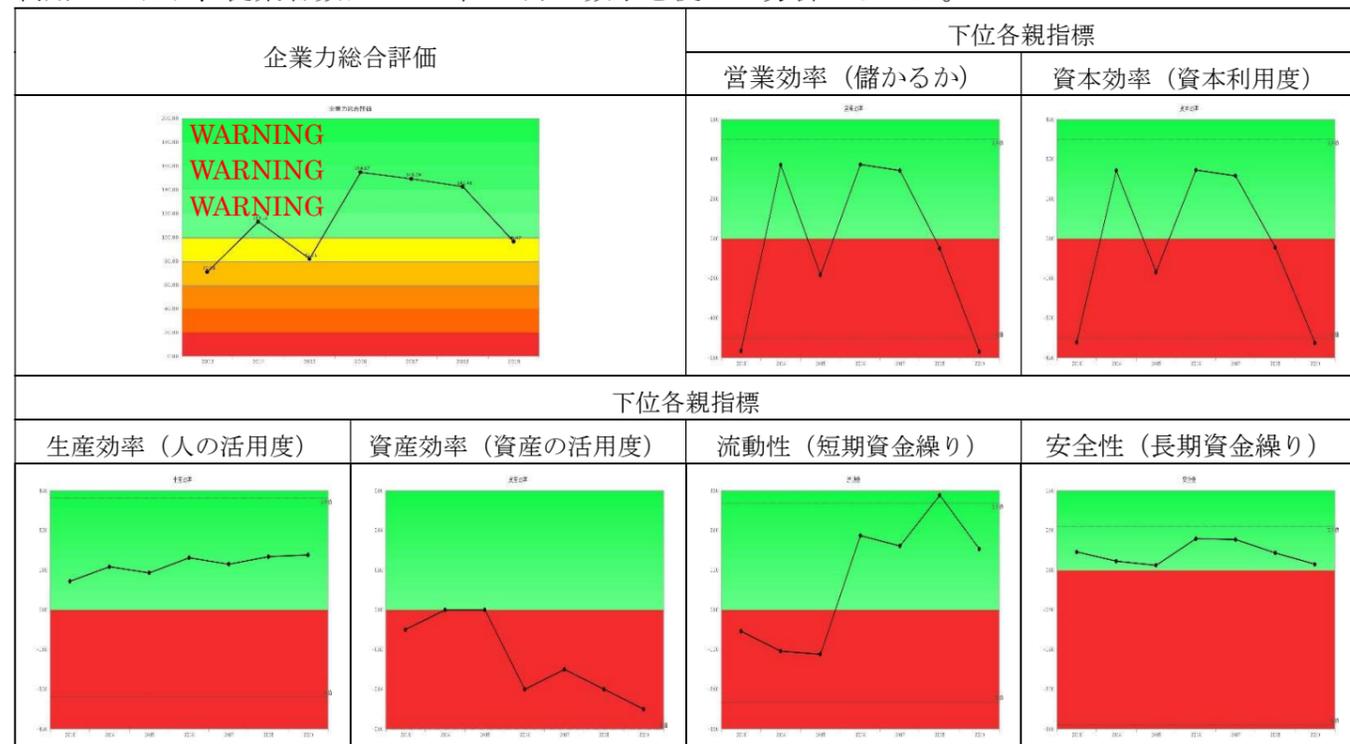


2019 年 12 月末に国内ユーザー 8,300 万人を突破したといわれる LINE 株式会社。圧倒的な利用者数を足掛かりに新たなビジネスを展開しています。上場は 2016 年 7 月 15 日、前日に米国市場にも上場しました。

2013～2019 年 12 月期までの 7 年間の連結財務諸表を分析してみました。2019 年 12 月は決算短信を利用して、従業員数は 2018 年 12 月の数字を使って分析しました。



不安定な動きの総合評価の点数は 96.47 ポイントと 100P 以上の正常な経営状況にあと一步及ばない上、**WARNING** が 3 つついたことで、60P 以下の可能性があり、かなり厳しい状況です。

儲かるかの評価である営業効率は、2013 年 2019 年は底値、7 期中 4 期は赤信号領域にあります。物凄い数のユーザー数のイメージと大きくかけ離れています。資本効率も同様です。

人の活用度を示す生産効率は右肩上がりです。

資産の活用度を示す資産効率は赤信号領域を右肩下がりになっています。売上高に対し人はあまり増えないけど資産が増えるパターンです。資産の膨張が心配です。

短期資金繰りを示す流動性、長期資金繰りや潰れにくさを示す安全性は青信号領域です。

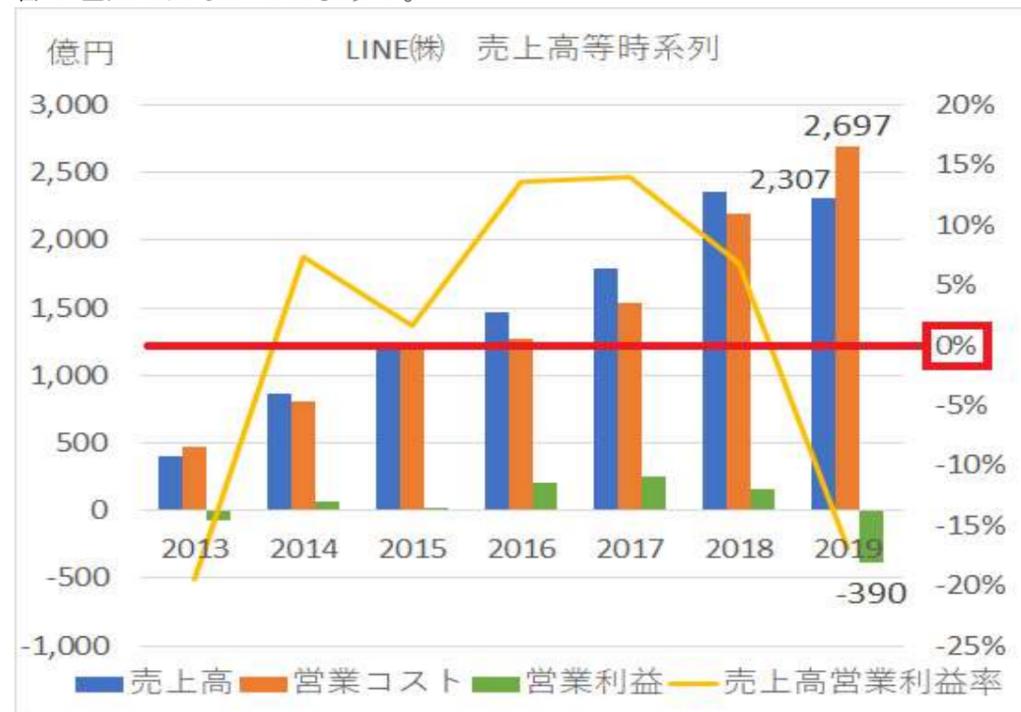
営業効率の財務数値、財務分析指標をグラフにしてみました。売上高営業利益率の乱高下が激しい会社です。2019 年は売上高 2307 億円を上げるのに、営業コスト (売上原価+販売費及び一般管理費) 2,697 億円使っていますから、390 億円の営業赤字です。売上高営業利益率▲16.9%

昨年秋、多額の損失で話題となったソフトバンクグループ株式会社の第 3Q は、売上高 7 兆 898 億円、営業損失 129 億円、売上高営業利益率▲0.18%ですから際立っています。

親会社は現在 (2020 年 3 月 10 日) 開示されていない 2019 年 12 月期を除き、営業黒字ですから、赤字原因は子会社が出しているのでしょう。

2019 年 11 月 18 日、LINE(株)と Yahoo!Japan の親会社 Z ホールディングスは経営統合に向けた記者

発表会をしました。米中 IT 巨人への危機感とのことですが、数字を見る限り、自社の経営状況が一番の理由ではないでしょうか。



大赤字の 2019 年 12 月期においても流動性、安全性という財務体質を示す親指標が青信号にとどまっているのは見事です。資本金と資本剰余金のグラフです。LINE(株)は資金調達が上手く、営業効率の悪化を支えていることが分かります。



まとめ

子会社 LINE Pay のシェア獲得の為の死闘を繰り返してきています。各社参入し、キャンペーンに群がる消費者や、店舗。株主も参戦し統合の話以降株価は高止まりです。

編集後記 店舗は現金を扱わなくなり、おつりの用意や現金管理から解放される反面、Line Pay に手数料を支払わなければなりません。キャッシュレスと現金払いが混在すれば、お店は大変ですが、キャンペーンで手数料が免除され、加盟しようということになるのでしょうか。(^.^#)文責 JY